

# 学校選択制の現状に関する調査・分析結果について（西区）

## 1 目的

本市では、大阪の教育力の向上、充実を図り、教育の振興を推進し、子どもたちの最善の利益を図るため、子どもや保護者の意向に答えていく必要があるとの観点から、平成24年度に学校選択制の制度化を行いました。

地域の実情に即した制度とするため、具体的な制度の方針案を区ごとに策定し、平成26年度入学者から小学校6区、中学校12区で開始。その後、順次、実施してきており、平成31年度入学者からは、小学校・中学校ともすべての区で実施しています（生野区の一部を除く）。学校選択制を利用して通学区域外の学校に就学した児童生徒の割合についても、年々増加している状況となっており、制度として定着してきていますが、制度の導入から年数が経過していることから、検証を行う必要があります。

平成27年度の制度導入時に小学校で学校選択制を利用した児童・保護者が、令和3年度に初めて中学校入学時に学校選択制を利用することとなることから、このタイミングを捉え、導入時の「熟議」や「就学制度の改善」において期待されていたメリットや懸念されていた課題について、今後の各区及び市全体において必要な改善を行うための材料の一つとして役立てるために、調査・分析を行いました。

## 2 調査・分析の視点

調査・分析にあたっては、学校選択制導入時の「熟議」や「就学制度の改善について」で期待されたメリットや懸念された課題をふまえ、今後の大阪市の学校選択制を考える上で考慮すべき項目として、次の項目を全区共通の調査・分析の視点として設定しました。

- 【視点①】学校選択制の満足度はどうか
- 【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているか
- 【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか
- 【視点④】特色ある学校づくりが進んだか
- 【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだか
- 【視点⑥】児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか
- 【視点⑦】学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか
- 【視点⑧】区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか
- 【視点⑨】学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

## 3 調査・分析データ

大阪市では、平成26年度の制度導入より毎年保護者アンケートを実施し、保護者の学校選択理由などを経年的に把握しているところです。

今回の調査・分析を行うにあたり、9項目の「調査・分析の視点」を設定し、各項目の分析に必要な質問を従来の保護者アンケートに追加するとともに、新たに地域団体関係者を対象とするアンケート調査、小中学校を対象とする学校選択制の状況調査を行いました。また、制度導入時からの、学校選択の状況や希望調査票の提出状況についてもとりまとめ、分析に活用しています。

### 【アンケート調査】

保護者アンケート＝令和3年度に区内の市立小・中学校に入学した児童生徒の保護者全員を対象に実施

※学校選択制導入時（平成27年度）～昨年度（令和3年度）に入学した児童生徒の保護者全員に実施したアンケート調査結果も使用。

地域団体関係者アンケート＝1つの小・中学校あたり1サンプルを目安に、地域団体役員等を対象に実施。

### 【学校状況調査】

区内の全市立小学校・中学校を対象に実施

### 【運用状況データの活用】

学校選択制によって通学区域外の学校に就学した者の割合、希望調査票の提出状況など

## 4 アンケート調査等の実施時期・回収方法など

### 【保護者アンケート】

令和3年5月下旬に各区役所から学校を通してアンケートを保護者に配付（学校からの配付基準日：5月18日）。

回収は区役所あて6月9日までに返信用封筒で送付。アンケートは無記名。

### 【地域団体関係者アンケート】

令和3年度に、会議などを通じて、地域団体の役員等に配付し、回収。

### 【学校状況調査】

令和3年度に、会議などを通じて、1つの学校あたり1枚の調査用紙を配付し、回収。

## 5 アンケート回収状況

（保護者アンケート）

	配布数	回収数	回収率
小学校	880	457	51.9%
中学校	573	271	47.3%

（地域団体関係者アンケート）

	配布数	回収数	回収率
地域団体役員等	14	12	85.7%

（学校調査）

	配布数	回収数	回収率
小学校	8	8	100.0%
中学校	3	3	100.0%

## 6 調査・分析結果

3ページ～27ページのとおり

### ※本報告書の構成について

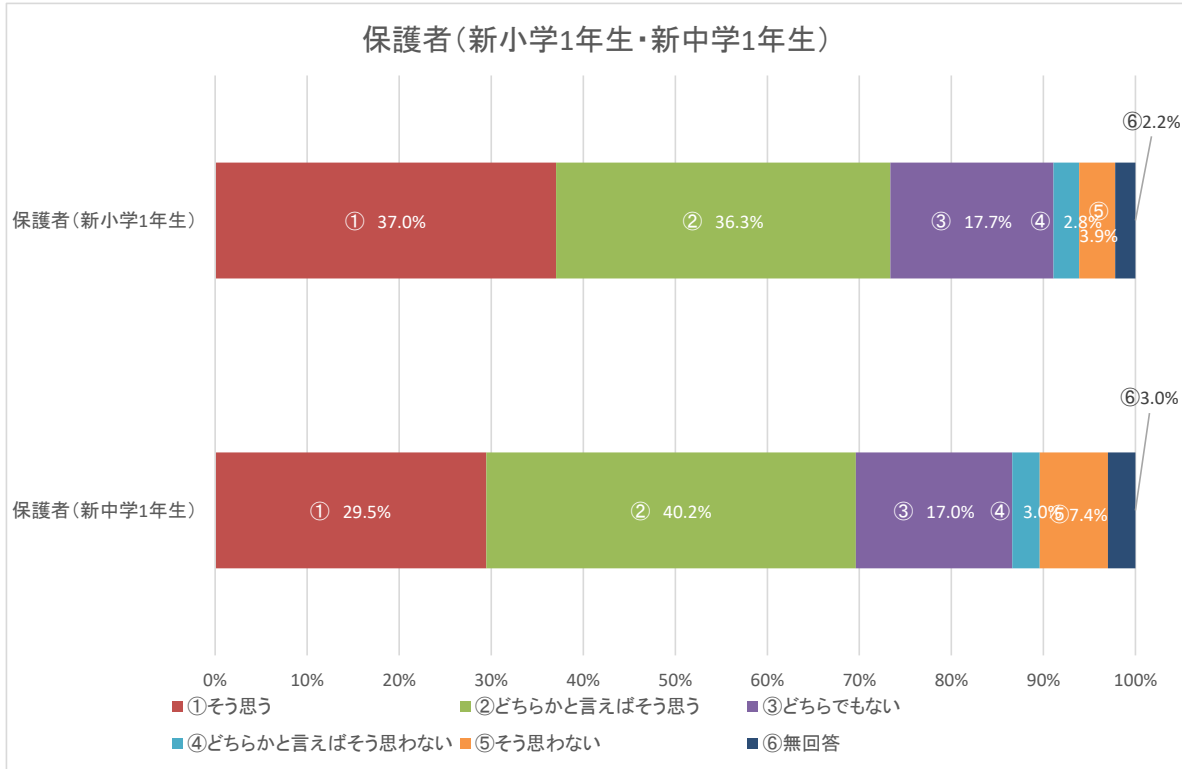
本報告書では、「調査・分析の視点」の各項目にそって、アンケート結果および学校状況調査、運用状況データの調査・分析結果をとりまとめています。アンケート結果にかかる報告書への掲載データは、一部抜粋して示しております。各アンケートにおける、結果の詳細については、「資料編」をご覧ください。

# 調査・分析内容

## 【視点①】 学校選択制の満足度はどうか

①学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。  
 【保護者アンケート(新小学1年生):問20、保護者アンケート(新中学1年生):問27】<1つだけ回答>

### ア)全体



(分析)  
 新小学1年生の保護者の73.3%、新中学1年生の保護者の69.7%が肯定的回答であり、学校選択制は全体的には肯定的に受けとめられている。  
 否定的意見としては、受入人数が少なく、希望がかなえられない可能性が高い等の意見がある。

#### 【理由】

##### ○新小学1年生の保護者

(肯定的回答)

- ・子どもに合わない、合う学校を検討できるから。
- ・教育内容で選べたりするのはいいことだと思う。
- ・学校から自宅までの距離が校区よりも隣の学校の方が近い場合もあるので選べるのはいいことだと思う。

(否定的回答)

- ・学校によって人数にばらつきがありすぎる。人気の学校とそうでない学校との差がはっきりと出ている。
- ・人気のある小学校は、元々児童が多いのに、さらに多くなるから、校区外の人まで来てほしくない。
- ・どの学校でも同じレベルの学びを受けれるべきと思うから。
- ・人気のある学校は定員がもうけられていて、最初から入れるスペースがないから。
- ・兄の入学時、選択制で校区外を希望しようか検討したが、弟も同じ校区外の学校に入れるか保証できないと言われたので、選択の余地なく校区内を希望した。兄弟枠はあってほしいです。
- ・選択制度で小学校を選んだ場合、中学校もその小学校区の中学校へ通えるようにしてほしい。

##### ○新中学1年生の保護者

(肯定的回答)

- ・希望する学校へ通えることは子供の学習意欲の向上に繋がり、保護者の事情等で、通わせる学校の選択肢が広がるため。
- ・選択肢が増えることで自分が希望している学校へ通えるチャンスがあるため。
- ・やりたい部活で選べるのはよかったと思います。
- ・いじめとか、環境を変えたい子もいると思うから。

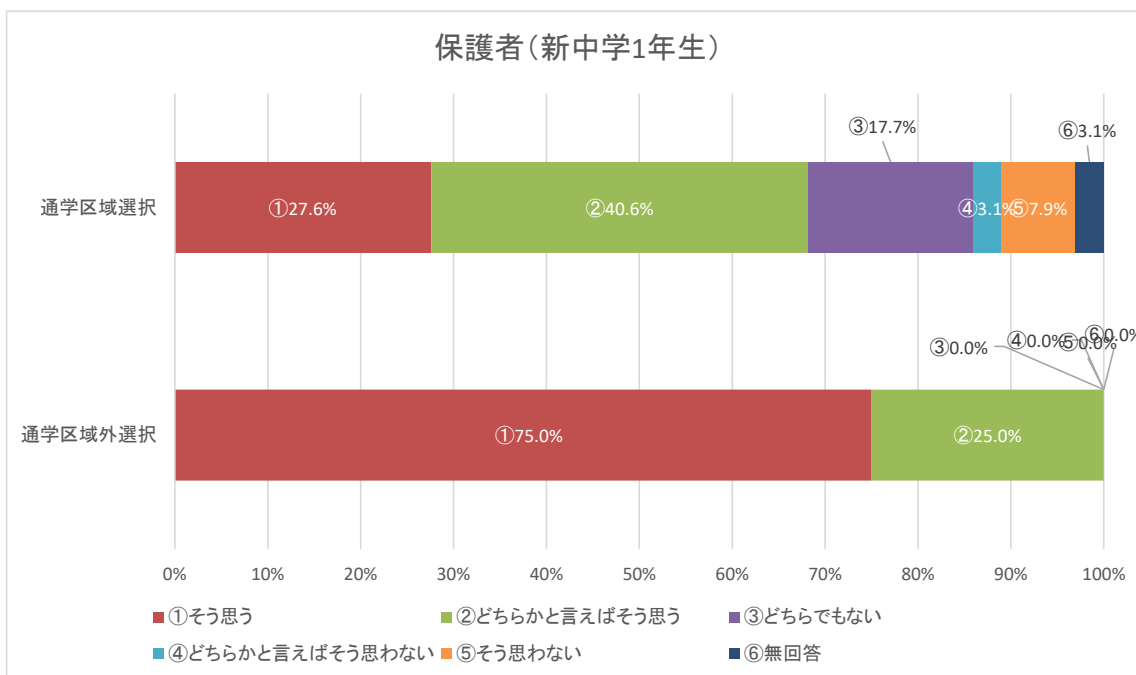
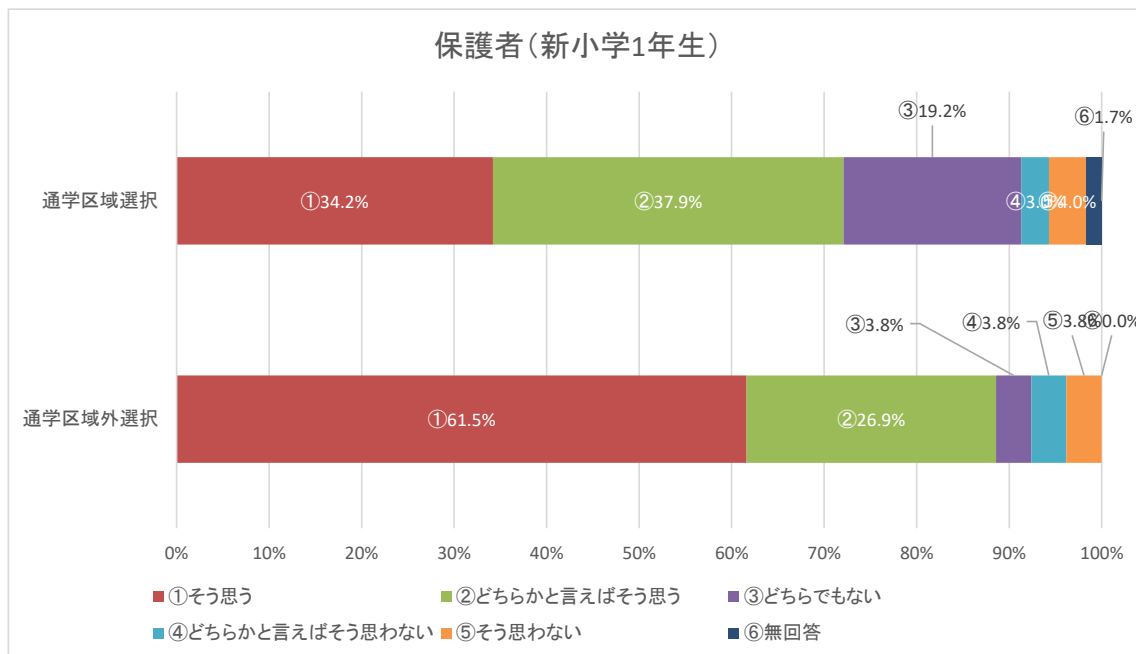
(否定的回答)

- ・選択制という割には受入人数が限られ、希望が通らない可能性も大きそうなので、あまり機能していないと思う。
- ・子どもを地域で育てるという観念が希薄になる。

##### ○その他

- ・小学校の選択制の決定はもう少し早くした方が準備時間に余裕が出ると思う

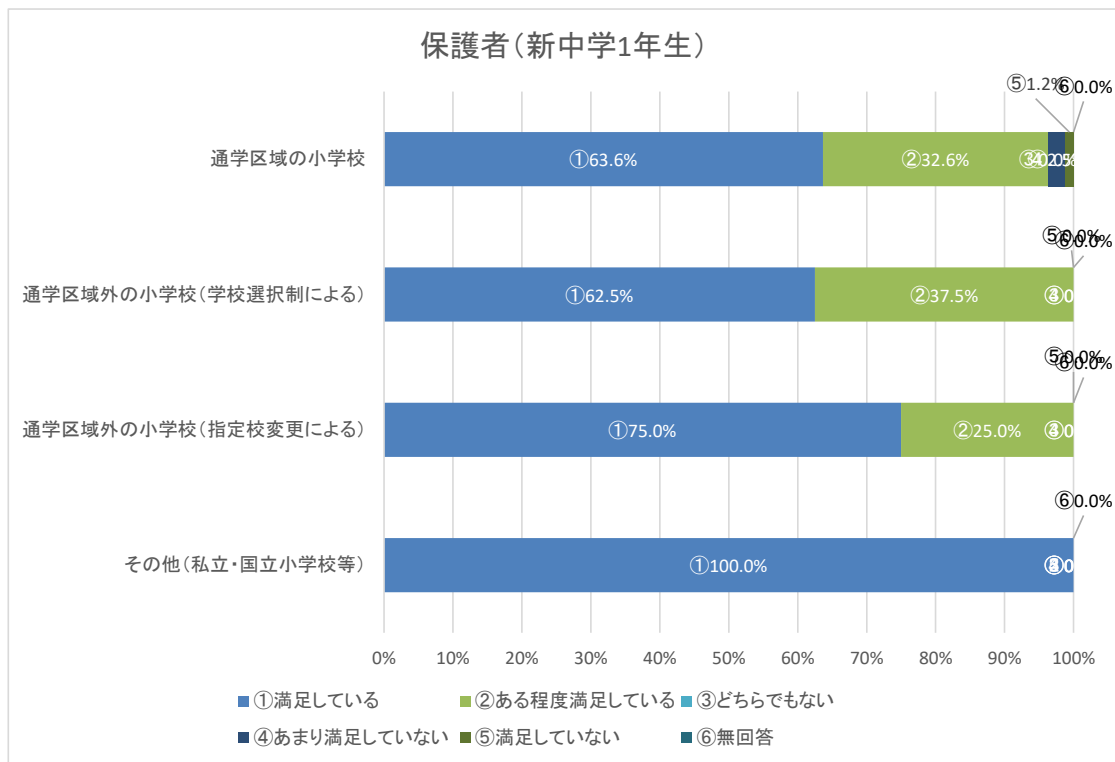
## イ) 通学区域・通学区域外別



(分析)  
 通学区域外を選択した新小学1年生の保護者及び新中学1年生の保護者は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」と回答した割合が8割以上で、通学区域を選択した保護者においても同回答の割合が7割となっており、保護者においては、通学区域内外を問わず選択制に対する評価は高い。

②あなたのお子さんが卒業した小学校について満足していますか。

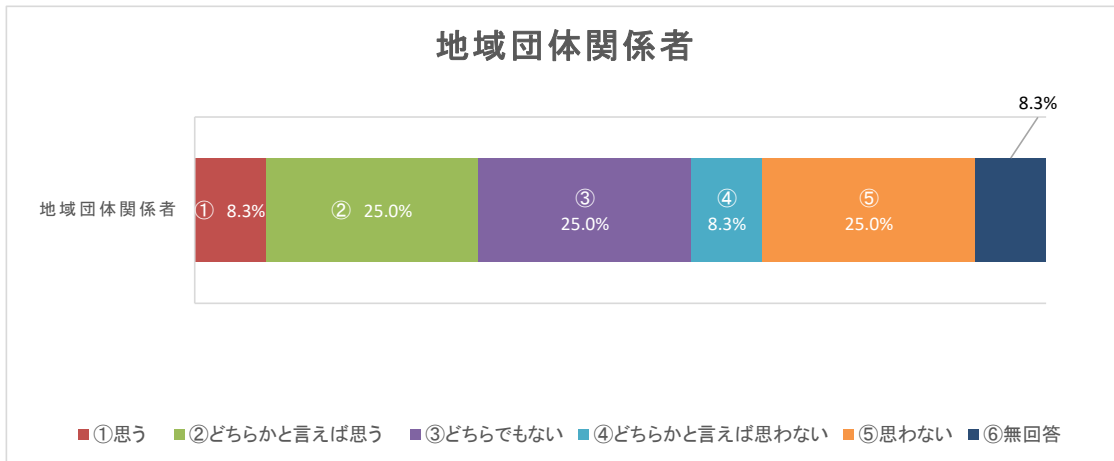
【保護者アンケート(新中学1年生):問19】<1つだけ回答>



(分析)  
通学区域、通学区域外を問わず、ほとんどの保護者が「満足している」「ある程度満足している」と回答している。

③学校選択制は、大阪市の子どもや保護者、大阪市の学校教育にとって良い制度だと思いますか。

【地域団体関係者アンケート:問6】<1つだけ回答>



【理由】

○肯定的回答

- ・大阪市の中でも、ある地域に一極集中的に人口増加が見られ、それに伴う教室不足は深刻さを増すばかりで、児童数分散の意味でも選択制は、良い制度だと思う。
- ・希望する学校へ通えることは、子供の学習意欲の向上につながる。
- ・学校選択制は、小学校区別の人口増加格差に対する調整機能や、児童の通学路の安全を確保する等の、既存校区制の中で矛盾を解決する策としては意味のある政策と考える。

○否定的回答

- ・地域にとっては小・中学校は災害時の避難場所であり、盆踊り、運動会、子ども会行事など地域の拠点であり、地域、学校、PTAとの合同行事などを行うことにより、結びつきができ町全体が良くなれば、と思っています。
- ・地域外に通うと、地域との繋がりが薄くなる。
- ・地域と家庭のつながりを希薄にする。地域の弱体化を生む。

(分析)

地域団体関係者については、「思う」「どちらかと言えば思う」との回答及び「どちらかと言えば思わない」「思わない」との回答がいずれも33.3%と同じになっている。選択制に対してメリット、デメリットの両面があると受けとめられている。

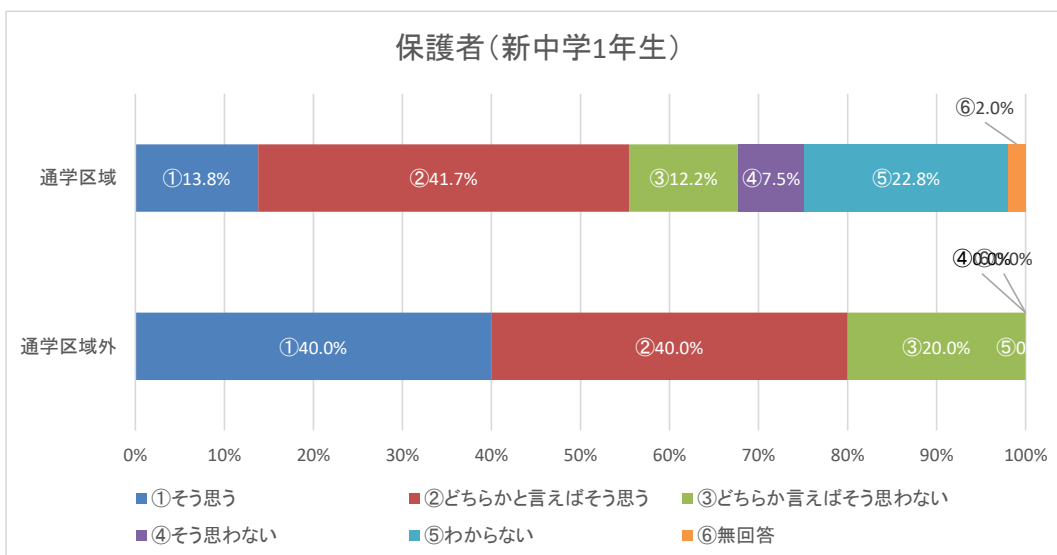
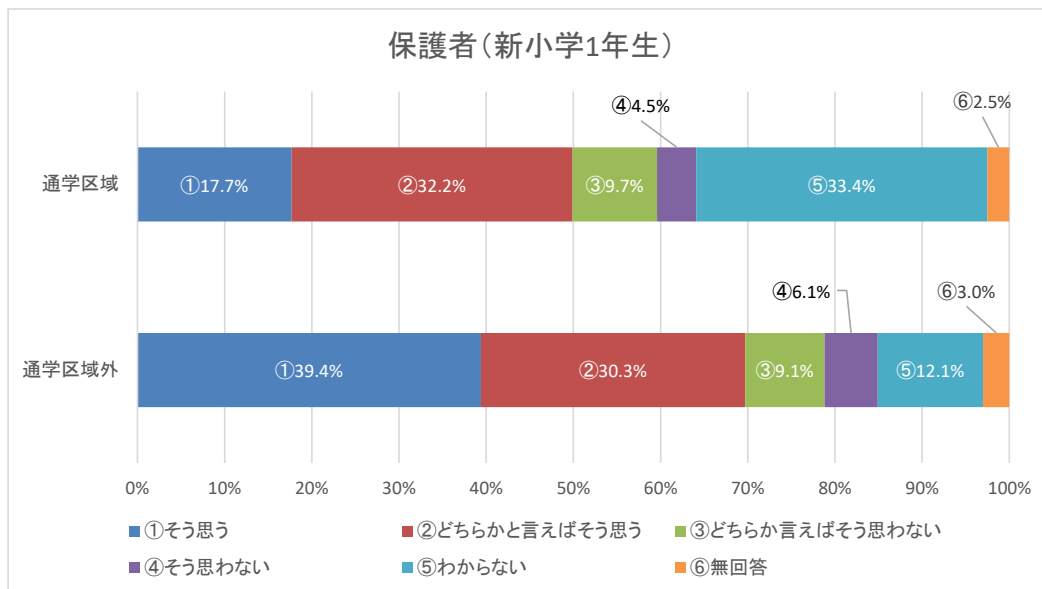
【視点①総括】

学校選択制の制度に対して、保護者からは、受入枠が小さいため制度があっても希望がかなえられない可能性があること、兄弟枠の設置、選択制により小学校を選んだ場合その通学区域の中学校に進学できるようにしてほしい、との意見がみられるものの、肯定的にとらえられている。また、選択結果の通知時期を早めにしてほしいとの意見もある。地域団体関係者においては、制度に対してメリット、デメリットの両面があると受けとめられている。

## 【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているか。

### ①学校選択制によって、子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問18、保護者アンケート(新中学1年生):問22】<1つだけ回答>

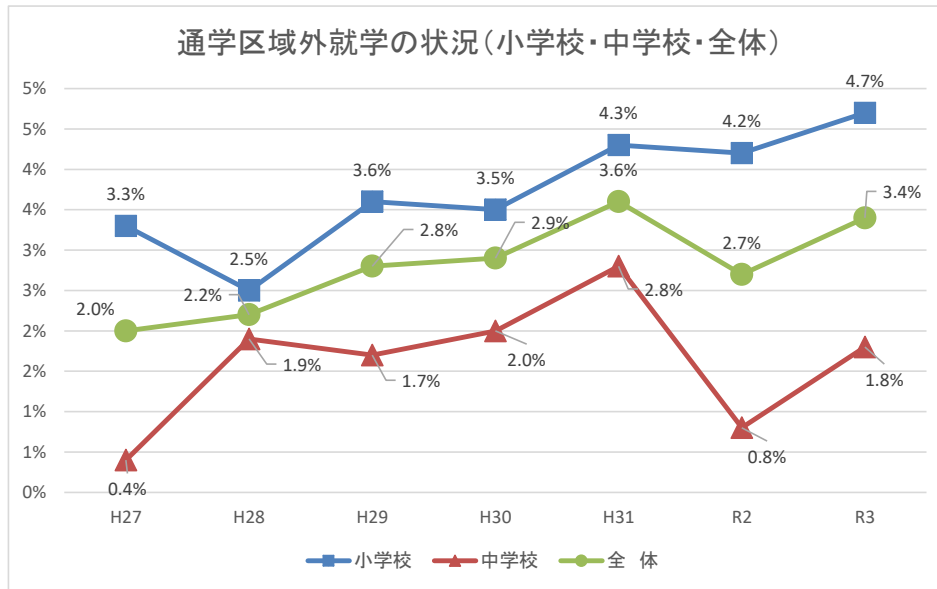


(分析)  
 通学区域外を選んだ保護者は、新小学1年生及び新中学1年生のどちらも、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答が7~8割で、通学区域を選んだ保護者においても5割が肯定的回答になっている。通学区域内外を問わず「わからない」との回答も2~3割存在している。

## ②学校選択制による通学区域外の学校への就学の状況

【運用状況データの活用】

大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制で通学区域外の学校に入学した者の割合。



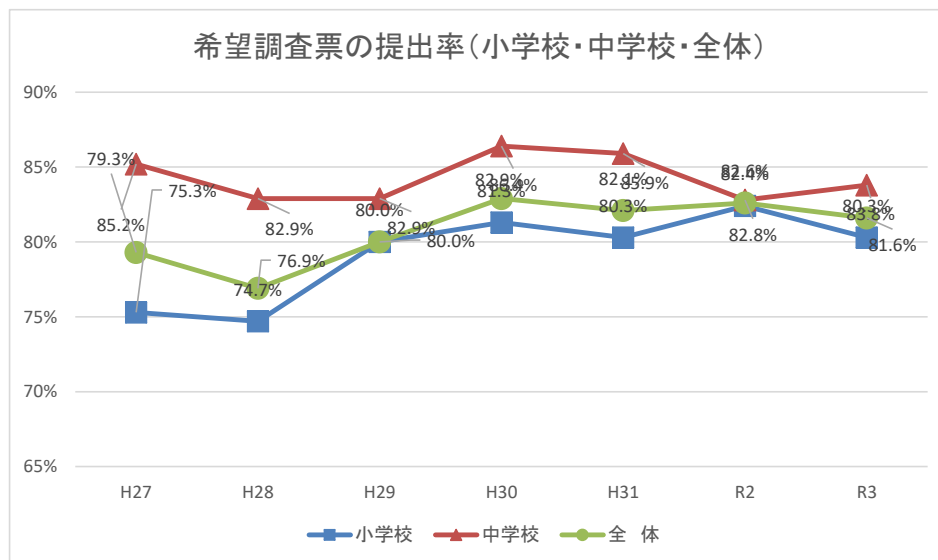
(分析)

通学区域外の学校への就学については、全体としてはH27年度に2.0%だったものがR3年度には3.4%になり徐々に増加している。学校種別では、小学校の割合が中学校に比べて高くなっている。

## ③希望調査票の提出率

【運用状況データの活用】

大阪市立の小学校・中学校に入学した者のうち、学校選択制の希望調査票を提出した者の割合。



(分析)

希望調査票の提出率については、全体としては8割程度で推移している。小学校についてはH27年度の75.3%から徐々に高まりR3年度には80.3%になっている。

### 【視点②総括】

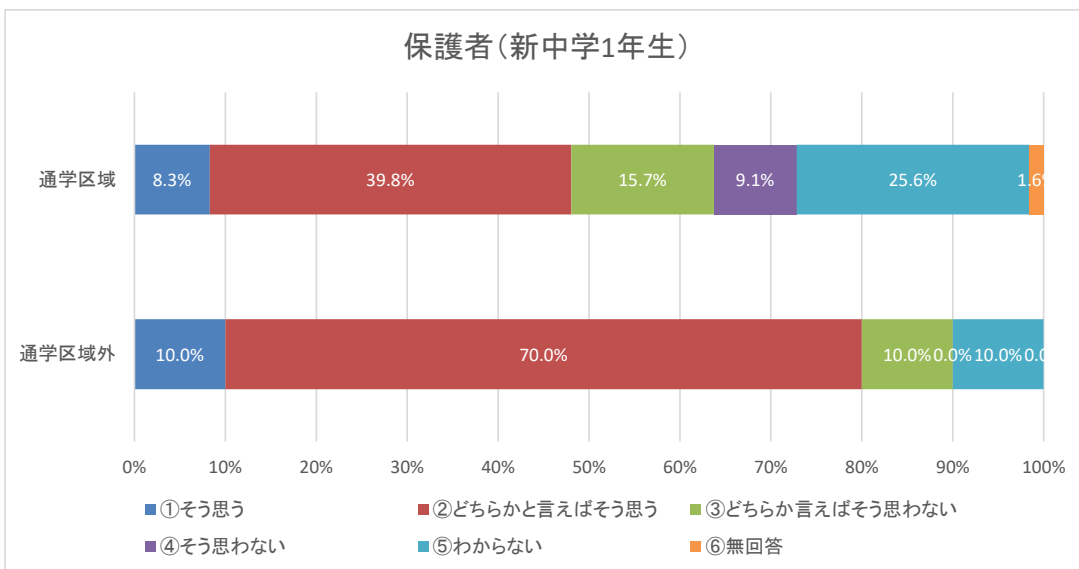
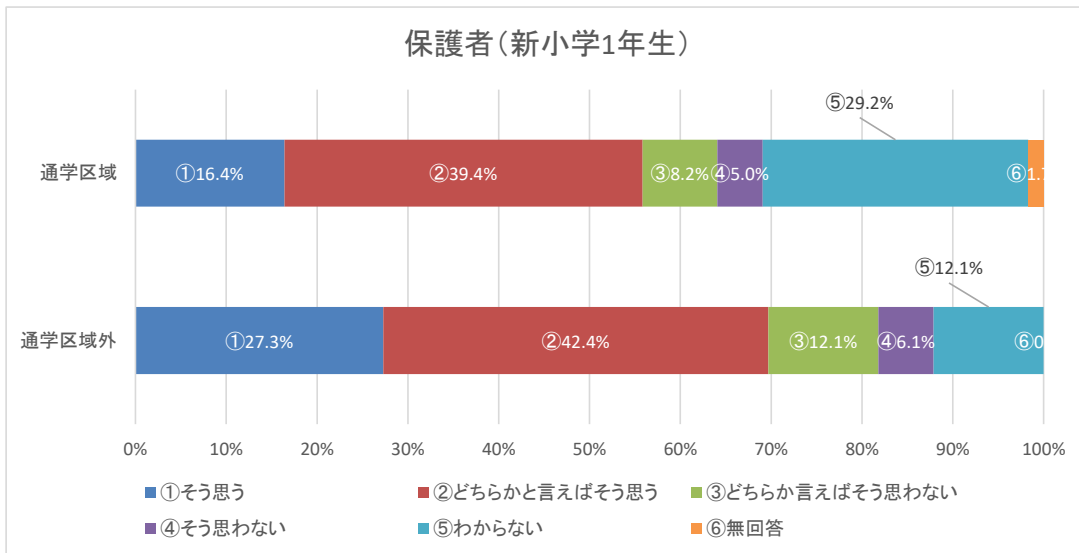
通学区域内外どちらの学校に入学した者の保護者も、意見を述べ、学校を選択できているとらえている割合が高い。通学区域外就学の割合が上昇してきていること、希望調査票の提出率が高い傾向にあることから学校選択にあたり意思表示ができているとらえていると思われる。その一方で、通学区域内外を問わず「わからない」との回答が2～3割存在している。



### 【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったか。

①学校選択制によって、子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問19、保護者アンケート(新中学1年生):問23】<1つだけ回答>

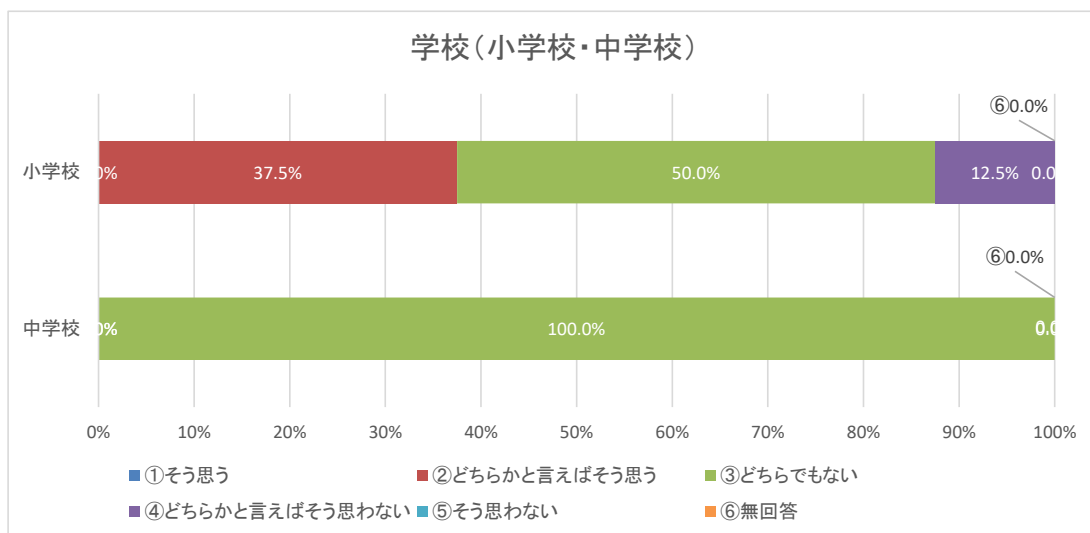


(分析)

学校選択制により学校教育に深い関心を持つようになった割合については、通学区域を選んだ新小学1年生及び新中学1年生の保護者は、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答が5割前後であり、通学区域外を選んだ保護者では同回答が7～8割となっており、通学区域内外どちらを選んだ保護者とも肯定的回答の割合が高い一方で、「わからない」との回答も一定数存在する。

②学校選択制によって、あなたの学校において子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったと思いますか。

【学校状況調査:問1】<1つだけ回答>



(分析)

学校の回答では、小学校では「どちらかと言えばそう思う」との回答が37.5%であるが、「どちらでもない」との回答が小学校で5割、中学校で10割となっており、子どもや保護者が学校教育への関心を深めるかについて、学校選択制との関係があるとはとらえていたとは言えない。

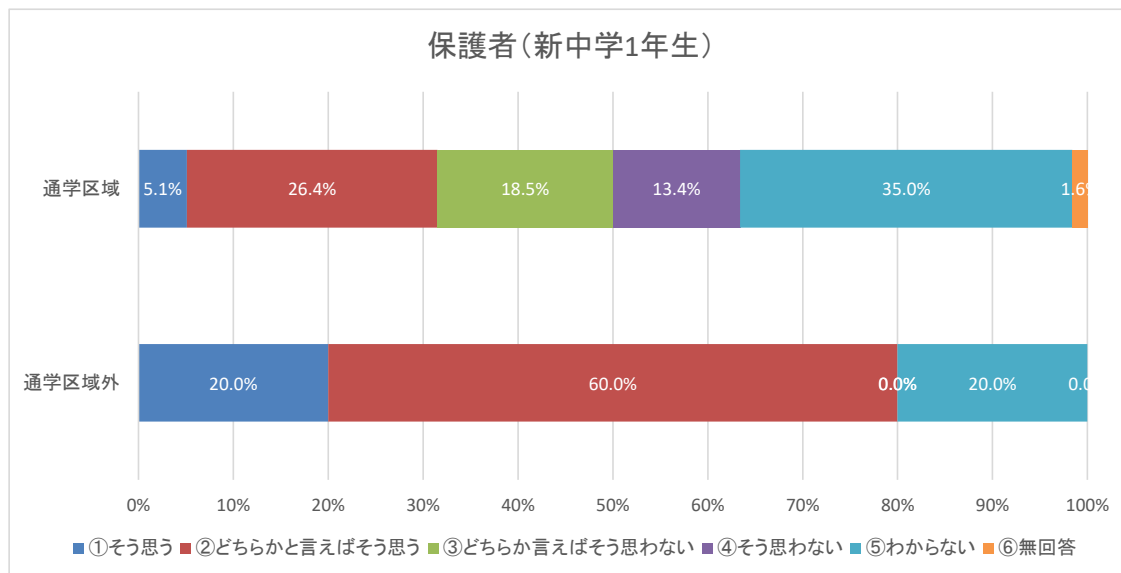
**【視点③総括】**

学校選択制が子どもや保護者の学校教育への関心を深めるかについて、保護者では通学区域内外どちらを選んだ者も肯定的回答の割合が高い一方で「わからない」との回答も一定数存在する。学校では全体的にみると「どちらでもない」との回答割合が高く、学校選択制との関係があるとはとらえていたとは言えない。

## 【視点④】 特色ある学校づくりが進んだか。

### ①学校選択制によって、特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問24]<1つだけ回答>

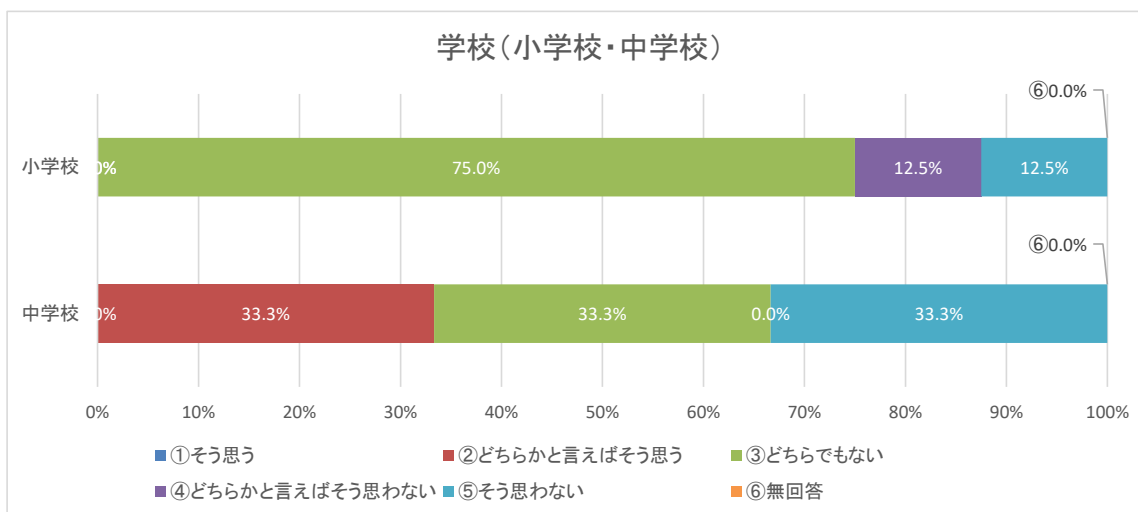


(分析)

学校選択制による特色ある学校づくりについては、通学区域を選んだ保護者は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」との回答、「わからない」との回答がいずれも3割程度となっている。一方、通学区域外を選んだ保護者では「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答が8割で高くなっている。

### ②学校選択制によって、あなたの学校における特色ある学校づくりが進んだと思いますか。

【学校状況調査:問3]<1つだけ回答>



(分析)

学校では、小学校は「どちらでもない」との回答が75.0%、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」との回答が25.0%で、中学校では「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答、どちらでもない」との回答、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」との回答がいずれも33.3%となっている。

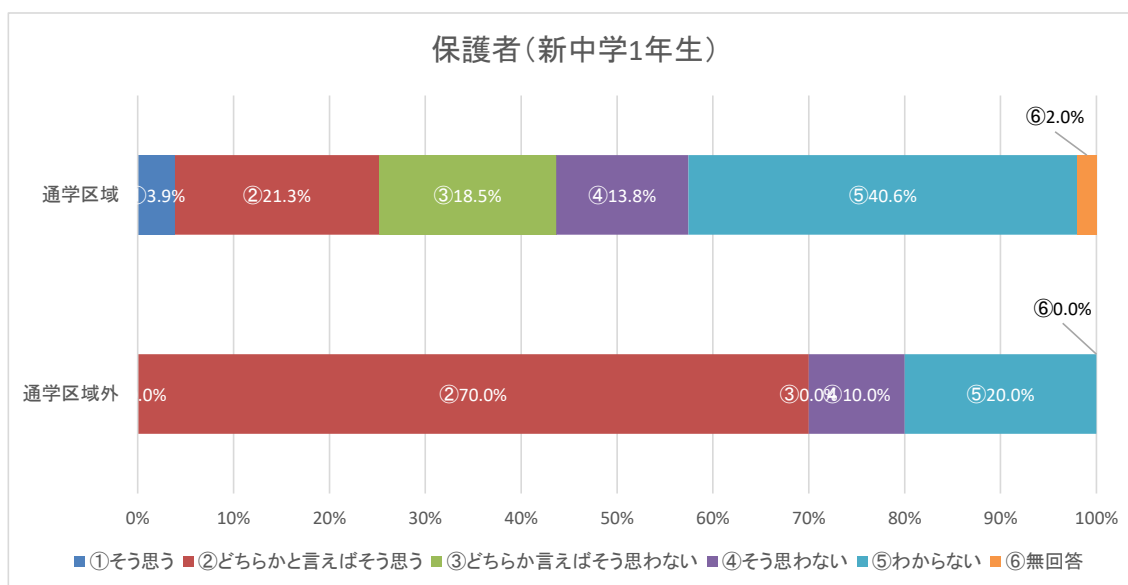
### 【視点④総括】

学校選択制による特色ある学校づくりについて、保護者においては、通学区域を選択した者では、学校選択制によるものかについて、肯定的回答、否定的回答、分からないが3割ずつであるが、通学区域外を選んだ者では、肯定的回答が8割と高くなっている。学校においては、中学校の3割が肯定的回答となっているが、全体的には「どちらでもない」との回答が多く、特色ある学校づくりの進展と選択制には関係があるとはとらえていないと思われる。

## 【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだか。

①学校選択制によって、学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み(授業参観、学校公開など)が充実してきたと思いますか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問25]<1つだけ回答>

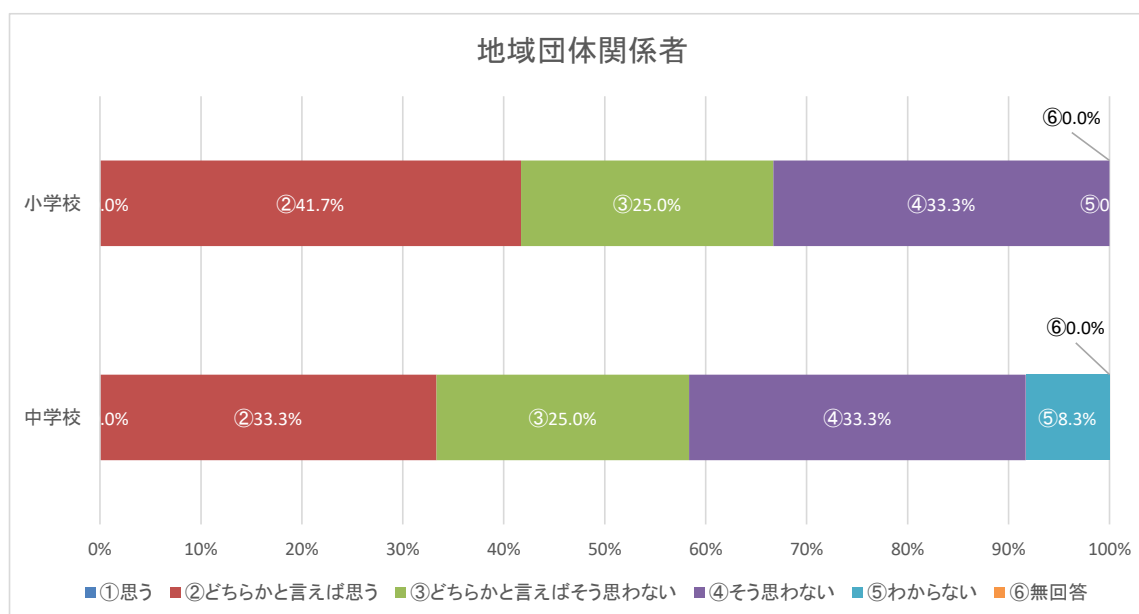


(分析)

学校選択制により保護者や地域住民の参加が進む取り組みが充実してきたかについては、通学区域を選んだ保護者では「わからない」との回答が4割と最も多いが、通学区域外を選んだ保護者では「と思う」「どちらかと言えば思う」との回答が7割と高くなっており、学校選択制により保護者や地域住民の参加が進む取り組みが充実してきたと考えているように思われる。

②学校選択制によって、あなたの地域の学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み(授業参観、学校公開等)が充実してきたと思いますか。

【地域団体関係者:問1]<1つだけ回答>

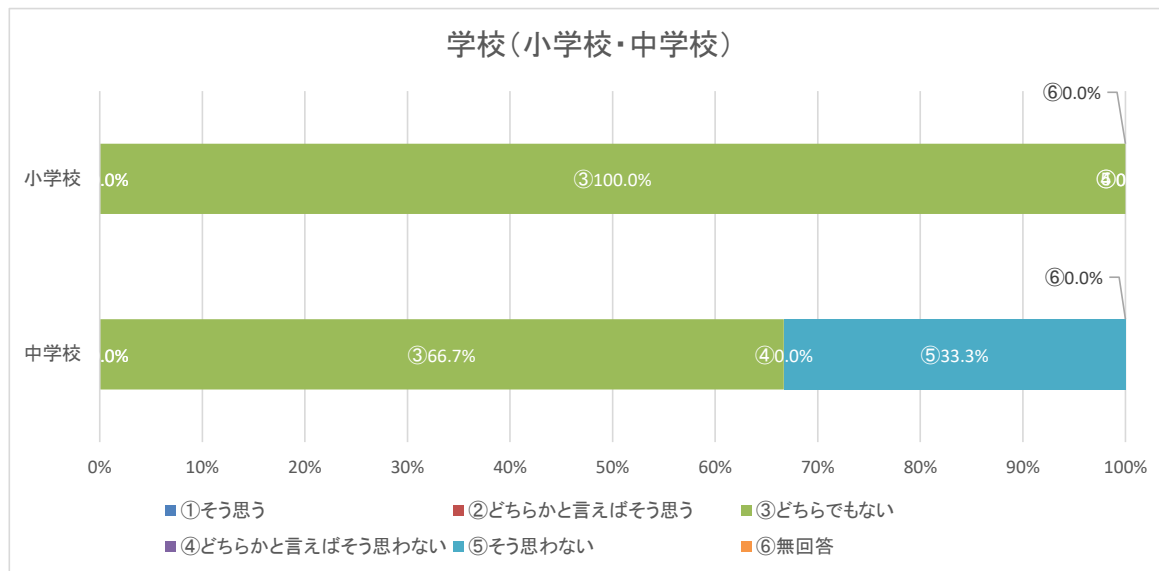


(分析)

地域団体関係者では、「思う」「どちらかと言えば思う」との回答は3~4割で、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」との回答は6割弱となっており、学校選択制により保護者や地域住民の参加が進む取り組みが充実してきたととらえてはいないように思われる。

③学校選択制によって、あなたの学校における保護者や地域住民の参加が進むような取り組み（授業参観、学校公開等）が充実してきたと思いますか。

【学校状況調査:問5】<1つだけ回答>

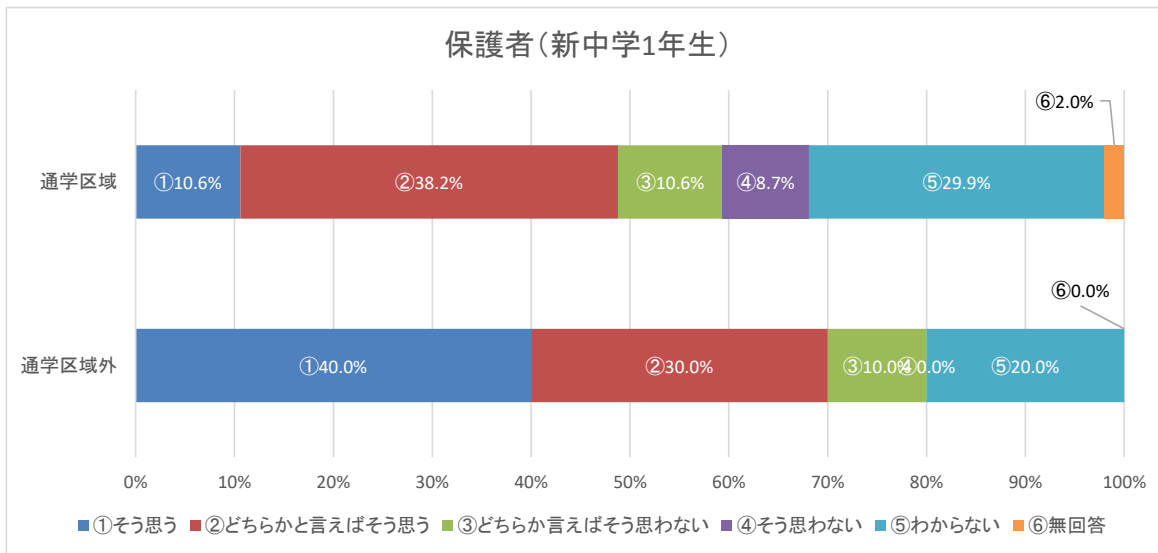


（分析）

学校では、小学校において「どちらでもない」との回答が10割で、中学校において「どちらでもない」との回答が3分の2、「そう思わない」との回答が3分の1となっており、学校選択制と保護者や地域住民の参加が進む取り組みの充実とに必ずしも関係があるとは考えていないと思われる。

④学校選択制によって、学校における情報発信(学校だより、ホームページの更新など)が充実してきたと思いますか。

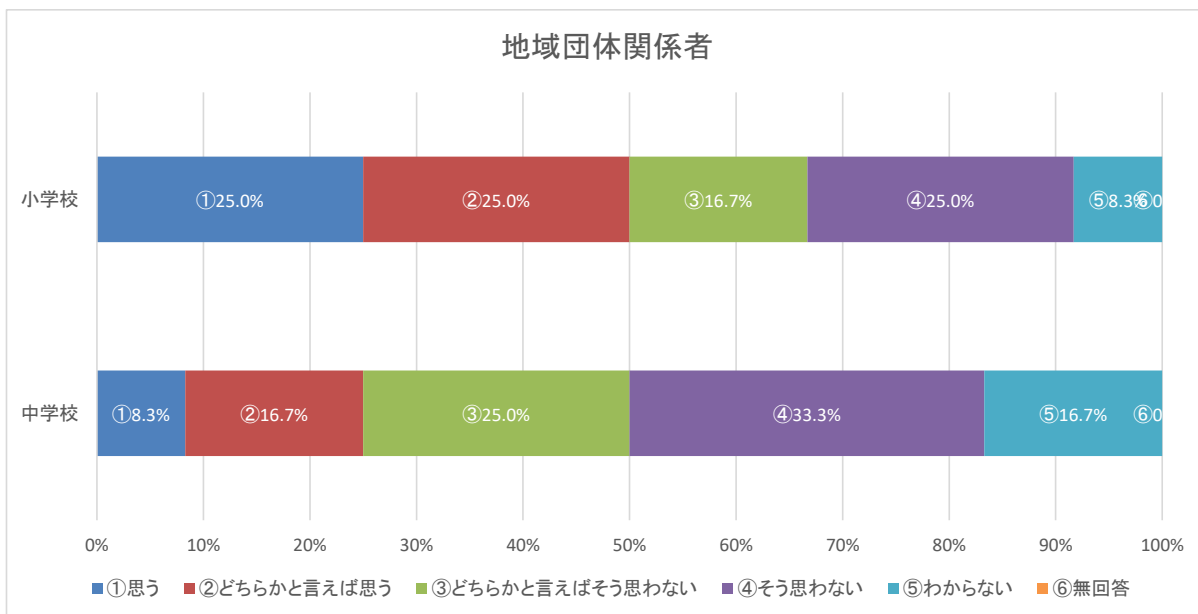
【保護者アンケート(新中学1年生):問26】<1つだけ回答>



(分析)  
 学校選択制により学校における情報発信が充実してきたかについては、通学区域を選んだ保護者では「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答が約5割で、通学区域外を選んだ保護者では同回答が7割となっている。

⑤学校選択制によって、あなたの地域の学校における情報発信(学校だより、ホームページの更新など)が充実してきたと思いますか。

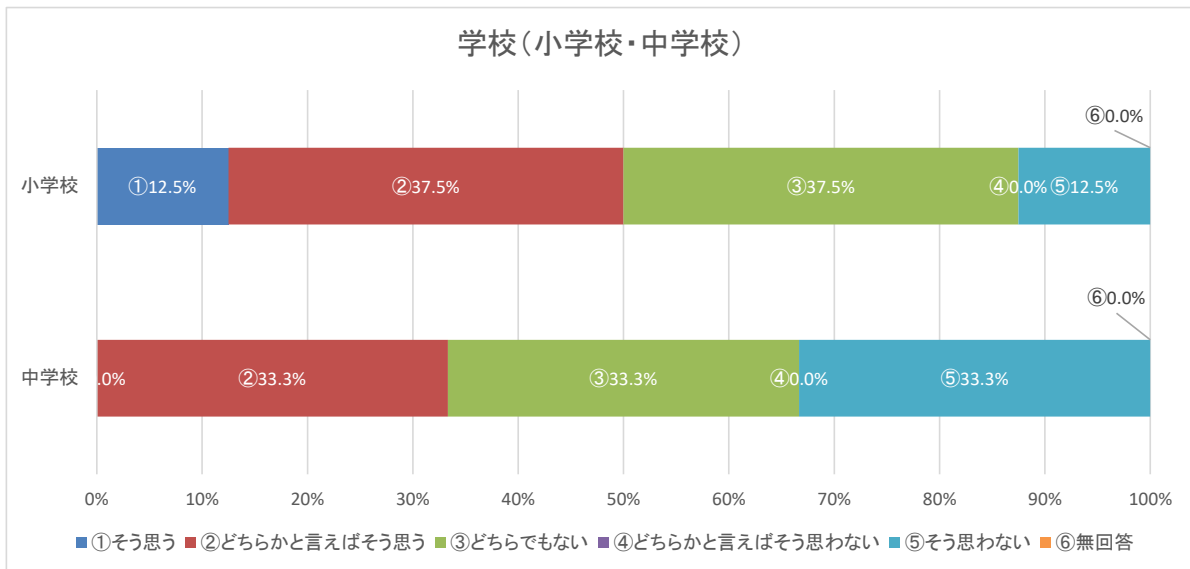
【地域団体関係者:問2】<1つだけ回答>



(分析)  
 地域団体関係者では、小学校については「思う」「どちらかと言えば思う」との回答が5割で、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」との回答が4割となっている。一方、中学校については「思う」「どちらかと言えば思う」との回答が4分の1で、「どちらかと言えばそう思わない」「そう思わない」との回答が6割弱となっている。

⑥学校選択制によって、あなたの学校における情報発信(学校だより、ホームページの更新など)が充実してきたと思いますか。

【学校状況調査:問7】<1つだけ回答>



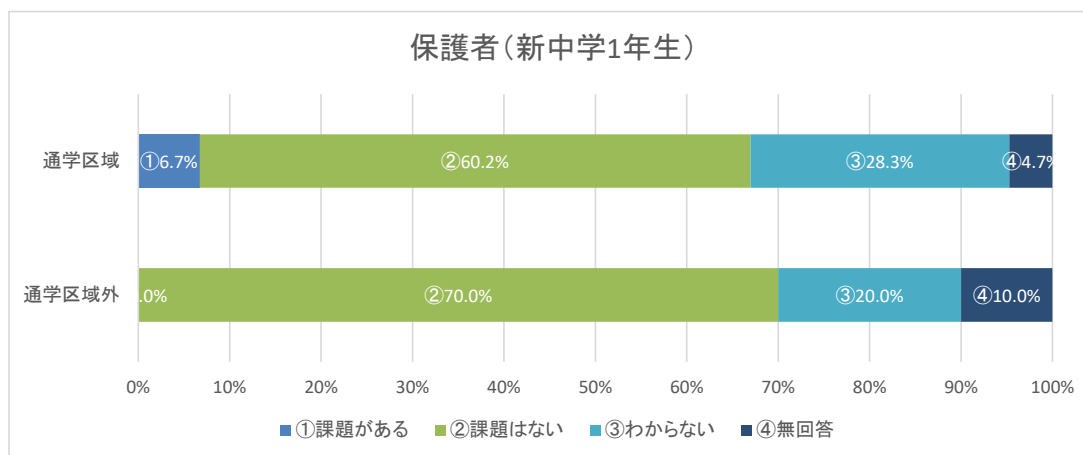
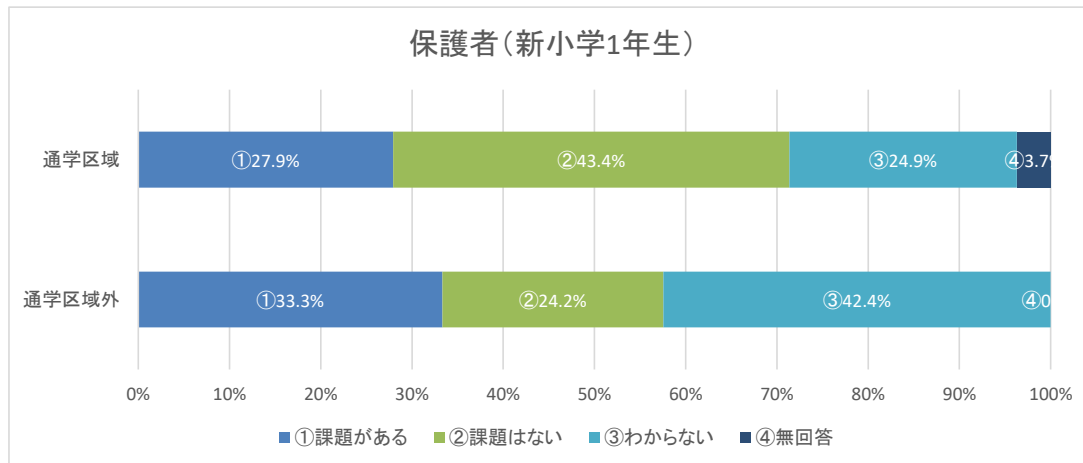
(分析)  
 小学校では、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答が5割で、「どちらでもない」との回答が4割弱となっている。中学校では、「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答、「どちらでもない」との回答、「そう思わない」との回答がいずれも33.3%となっている。

**【視点⑥総括】**  
 学校選択制による保護者や地域住民の参加が進むような取組み及び情報発信の充実については、通学区内外を問わず保護者では、肯定的回答が半数以上となっており、選択制により学校の取組み及び情報公開が充実したととらえている一方で、2～3割の保護者は「わからない」と回答している。  
 地域団体関係者では、小学校については5割が肯定的回答である一方で、中学校については肯定的回答が4分の1となっており、小学校と中学校で違いがみられる。学校では、選択制と取組みの充実については関係があると考えていないと思われるが、情報発信については一定充実してきたととらえていると思われる。

## 【視点⑥】児童生徒の通学の安全に課題が生じていないか

### ①あなたのお子さんの通学の安全に課題が生じていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問15、保護者アンケート(新中学1年生):問15】<1つだけ回答>



#### 【具体的な課題及び改善のアイデア】

##### ○課題

- ・大きな道路の横断が危険 学校前の道路が狭く、けがにつながる
- ・人数が多すぎて、登校時道からはみ出している
- ・交通量が多い
- ・大通りを横断する際、車と接触する可能性がある
- ・路駐が多い、歩道に自転車が多い

##### ○改善のアイデア

- ・通学中は車の交通を止めてほしい。もしくは通学路はわかりやすい道路の色を変えてほしい
- ・見守りの人がほしい

#### (分析)

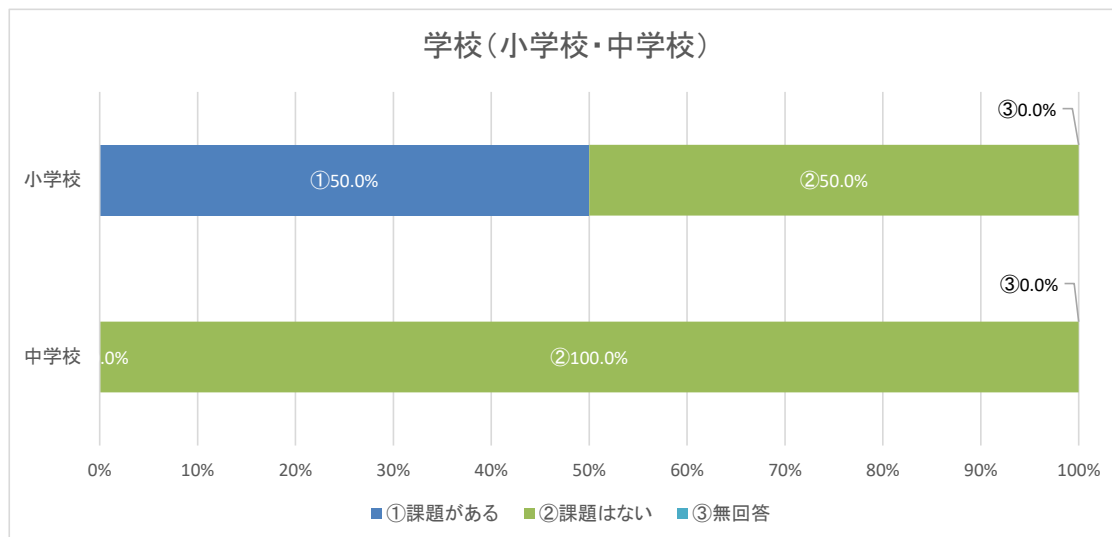
通学の安全に課題が生じているかについては、新小学1年生の保護者は「課題がある」との回答が3割で、新中学1年生の保護者は同回答が1割に満たず、新小学1年生の保護者の方が通学の安全に課題が生じていると考えている。

新小学1年生の保護者の中では、通学区域を選んでいる者は「課題はない」との回答が4割程度であり、通学区域外を選んでいる者では同回答が2割強で、「わからない」との回答が4割をこえている。



②あなたの学校において、学校選択制により、通学の安全に課題が生じていますか。

【学校状況調査:問9】 <1つだけ回答>



【具体的な課題事例】

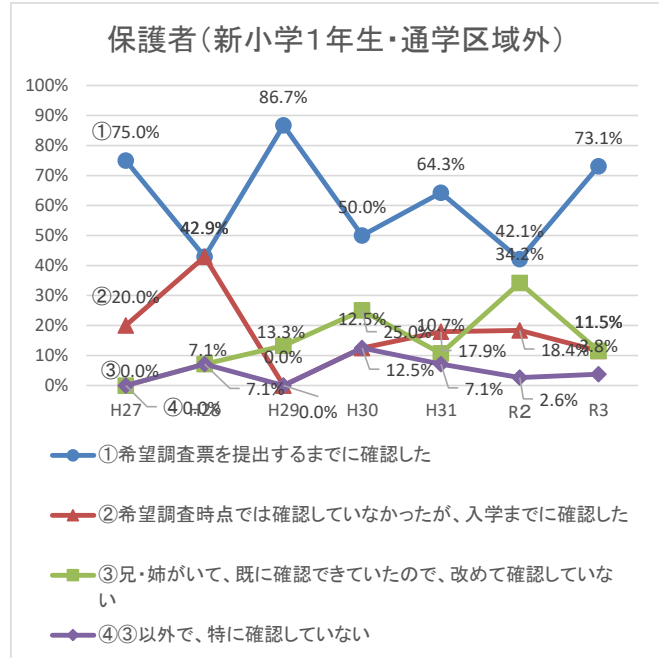
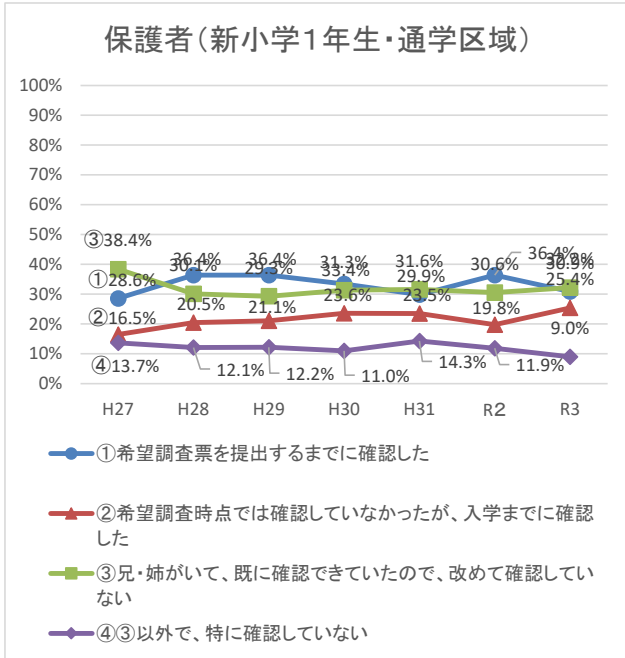
- 通学距離が長くなり、下校時や集団登校に遅れた場合など一人での通学が心配である。
- 児童数の極端な減少により、これまで実施してきた集団登校が難しくなった。

(分析)  
小学校では、通学の安全について「課題がある」との回答が5割となっている。課題としては、西区は交通量が多い箇所もあり、特に通学区域外から通学する児童については通学距離が長くなることにより遅参や下校時の単独通学時の不安などがあげられている。一方、中学校では「課題はない」との回答が10割となっている。

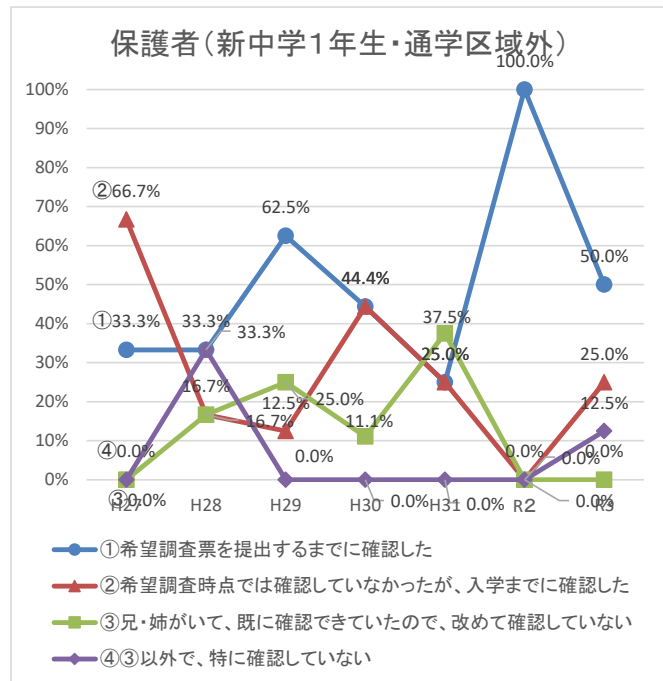
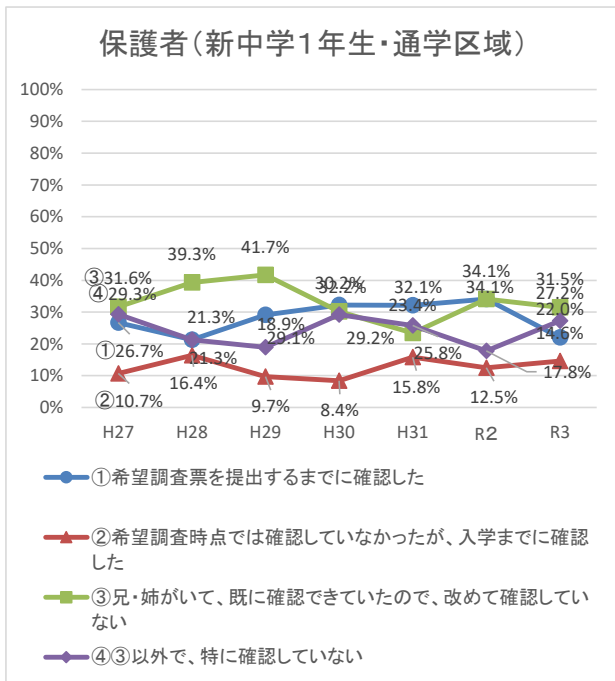
### ③通学路の安全や通学距離、通学に要する時間等について確認されましたか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問6、保護者アンケート(新中学1年生):問6】<1つだけ回答>

#### <保護者(新小学1年生)>



#### <保護者(新中学1年生)>



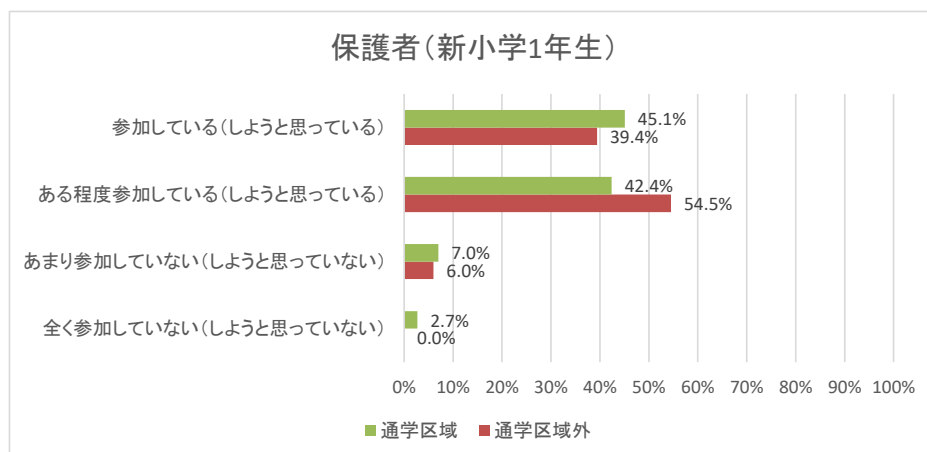
(分析)  
通学路の確認については、新小学1年生の保護者及び新中学1年生の保護者ともに、通学区域外の学校を選んだ者は「希望調査票を提出するまでに確認した」との回答割合が高くなっている。

**【視点⑥総括】**  
通学の安全に課題が生じているかについては、保護者、学校ともに小学校において課題があるととらえている。保護者では、通学区域外を選んだ者は、通学距離が長くなる、交通量が多いところを通学するためか、通学路の安全や通学距離、通学時間について事前に確認している割合が高くなっている。

## 【視点⑦】 学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないか

①あなたは、お子さんが通っている学校の行事(運動会、授業参観など)や、PTAの活動(親子レクリエーション、登下校の見守りなど)に参加していますか、又は今後参加しようと思っ  
ていますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問13、保護者アンケート(新中学1年生):問13】<1つだけ回答>

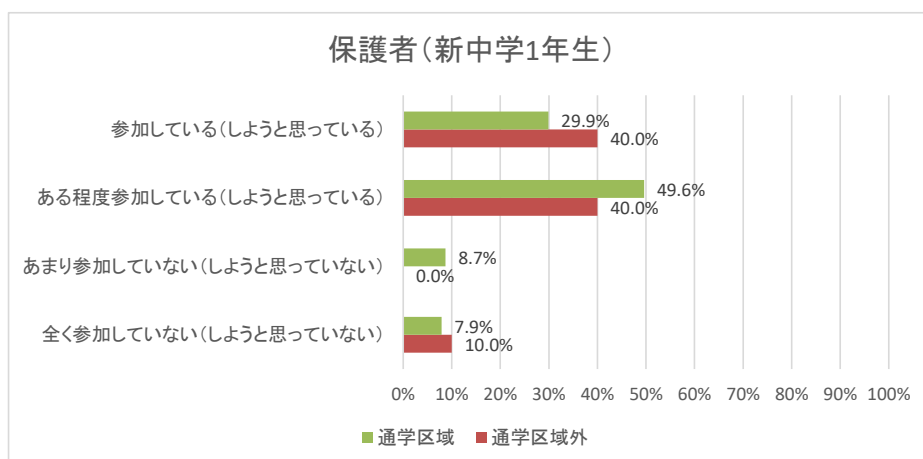


### 【理由】

- 子供の学校での様子が知りたいので(肯定的回答)
- 学校行事、PTA活動が子どもの成長に必要なものと考えているため(肯定的回答)
- 仕事で時間が割けないため(否定的回答)

### (分析)

学校の行事やPTAの活動への参加については、新小学1年生の保護者では、通学区域を選んだ者及び通学区域外を選んだ者のどちらとも「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っ  
ている)」との回答が9割程度と高くなっている。



### 【理由】

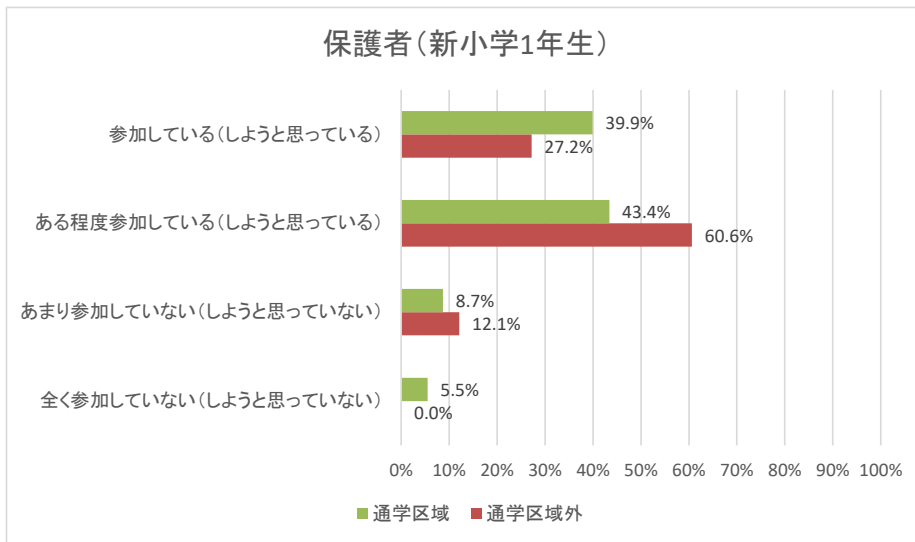
- 子供の成長をみるため(肯定的回答)
- 学校の様子を知りたいから(肯定的回答)
- 仕事のため参加するのが難しい(否定的回答)

### (分析)

新中学1年生の保護者では、通学区域を選んだ者及び通学区域外を選んだ者のどちらとも「参加している(し  
ようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」との回答が8割となっている。新小学1年  
校保護者との比較では「全く参加していない(しようと思っていない)」との回答が通学区域外を選んだ新中学1  
年生の保護者では1割となっている。

②あなたのお子さんは、住んでいる地域の行事(祭り等)に参加していますか、又は今後参加しようと思っていますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問14、保護者アンケート(新中学1年生):問14】<1つだけ回答>

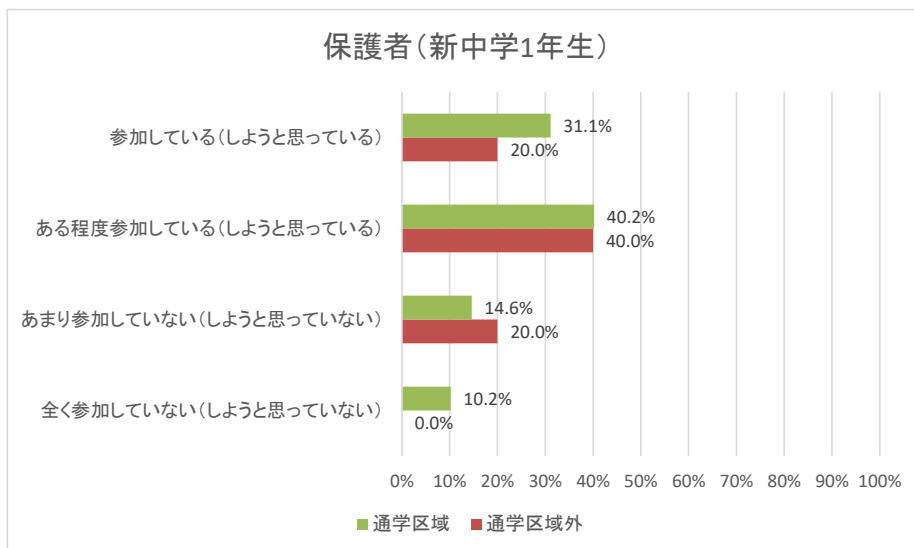


【理由】

- ・子どもが楽しめ、地域とつながれるため(肯定的回答)
- ・地域で子供達を見守れるよう出来るだけ参加したいと思う(肯定的回答)
- ・地域で何が行われているかあまり知らない(否定的回答)

(分析)

地域の行事への参加については、新小学1年生の保護者では、通学区域を選んだ者及び通学区域外を選んだ者のどちらとも「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」との回答が8割を上回っている。



【理由】

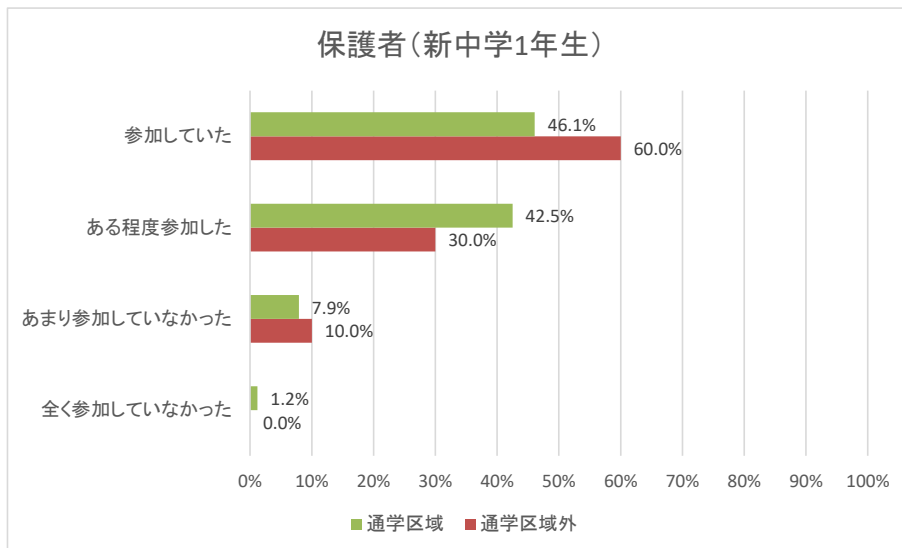
- ・友達が参加するのであれば参加している(肯定的回答)
- ・親が連合の青年部にかかわっているので参加している(肯定的回答)
- ・小学校までは参加していたが中学校以降は部活動で忙しく参加していない(否定的回答)

(分析)

新中学1年生の保護者では、通学区域を選んだ者は「参加している(しようと思っている)」「ある程度参加している(しようと思っている)」との回答が7割で、通学区域外を選んだ者は同回答が6割となっており、小学生に比べ低くなっている。

③あなたは、お子さんが卒業した小学校(運動会、授業参観など)の行事や、PTAの活動(親子レクリエーション、登下校の見守りなど)にどの程度参加しましたか。

【保護者アンケート(新中学1年生):問20】<1つだけ回答>



【理由】

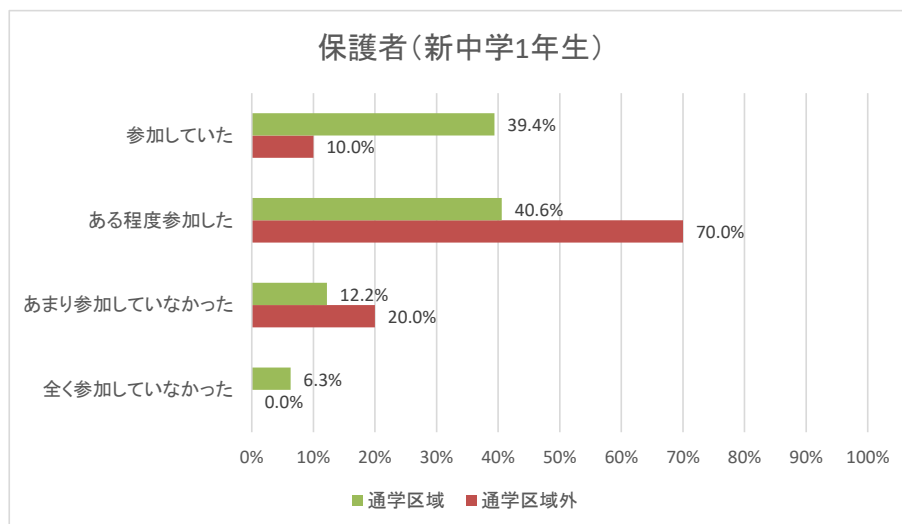
- ・学校での様子を見たいのと、知り合いを増やしたかったため(肯定的回答)
- ・PTA役員だったため(肯定的回答)
- ・仕事のため参加できなかった(否定的回答)

(分析)

新中学1年生の保護者の小学校での行事やPTAの活動に対する参加度合については、通学区域を選んだ者及び通学区域外を選んだ者のどちらとも「参加していた」「ある程度参加した」との回答が9割程度となっている。

④あなたのお子さんは、小学校のときに住んでいる地域の行事(祭り等)に参加していましたか

【保護者アンケート(新中学1年生):問21】<1つだけ回答>



【理由】

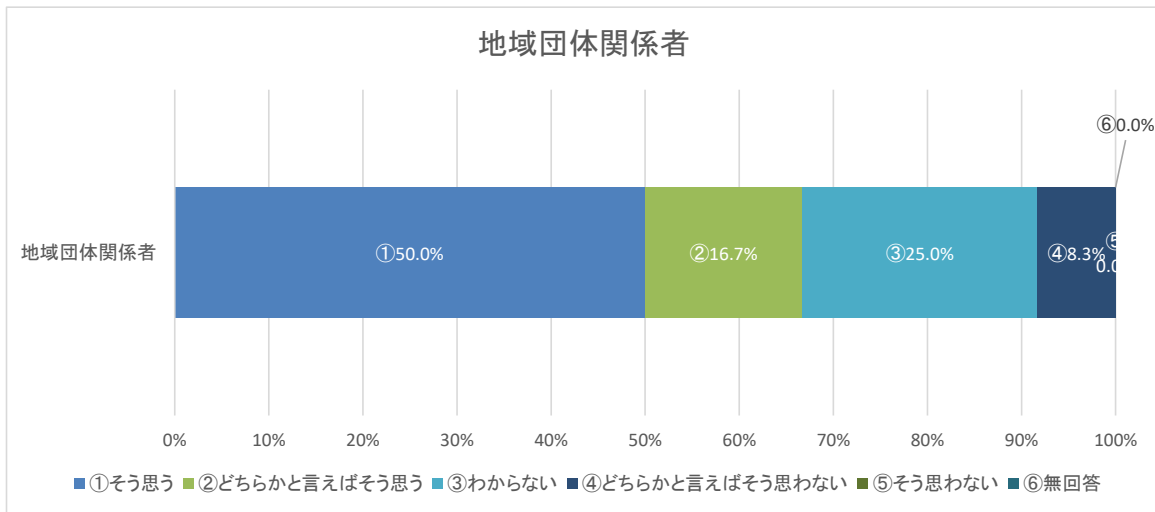
- ・子どもが楽しみにしていた(肯定的回答)
- ・手伝い等で親が参加することが多かったので(肯定的回答)
- ・友人をたくさん作りたかったから(肯定的回答)
- ・参加したいと子どもが言わないから(否定的回答)

(分析)

新中学1年生の小学生時の地域行事への参加については、通学区域を選んだ者及び通学区域外を選んだ者のどちらとも「参加していた」「ある程度参加した」との回答が8割となっている。

⑤「地域の繋がりが薄くなっている」という意見がありますが、あなたはどのように思いますか。

【地域団体関係者アンケート:問3】 <1つだけ回答>

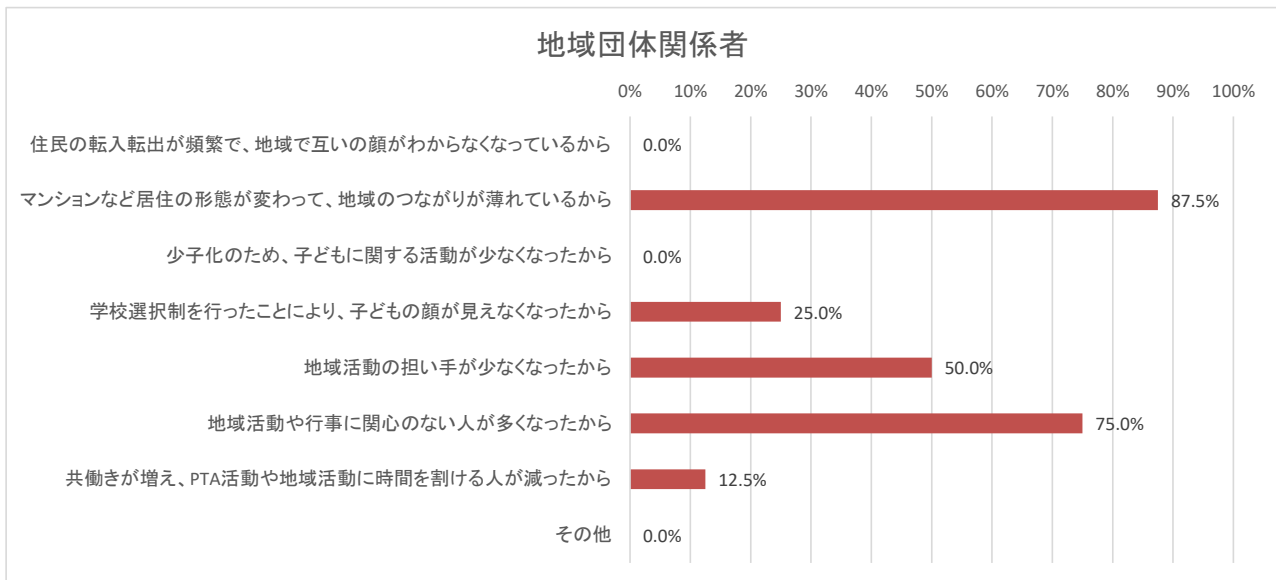


(分析)

地域団体関係者では、「地域の繋がりが薄くなっている」について「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答が3分の2となっている。

⑥上記の設問で「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」とお答えいただいた方にお尋ねします。それは何が原因だと思いますか。

【地域団体関係者アンケート:問4】<3つまで回答可>

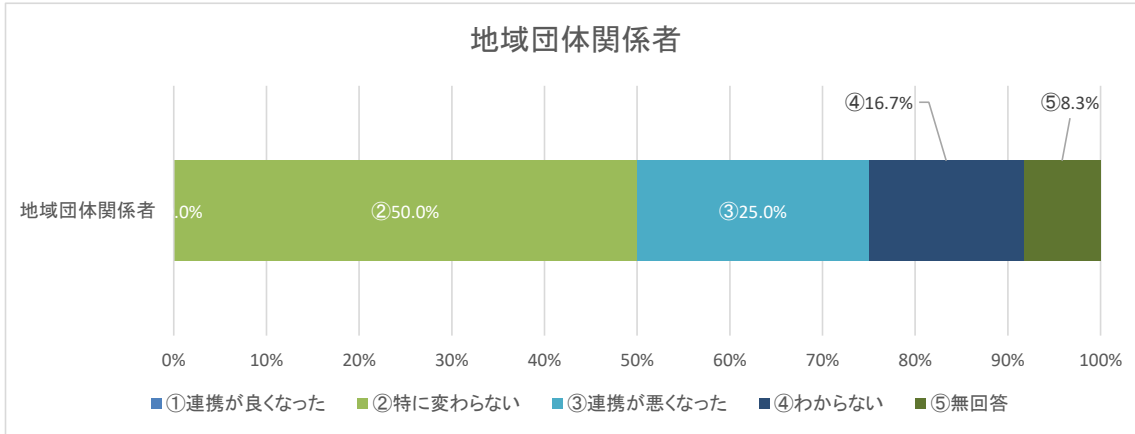


(分析)

「地域の繋がりが薄くなっている」と回答した地域団体関係者では、「マンションなど居住の形態が変わって、地域のつながりが薄れているから」との回答が87.5%、「地域活動や行事に関心のない人が多くなったから」との回答が75.0%、「地域活動の担い手が少なくなったから」との回答が50%で、5割以上となっている。一方、「学校選択制を行ったことにより、子どもの顔が見えなくなったから」との回答は25%、「共働きが増え、PTA活動や地域活動に時間を割ける人が減ったから」との回答は12.5%となっている。

⑦学校選択制の導入により、あなたの地域における学校と地域の連携にどのような影響がありましたか。

【地域団体関係者アンケート:問5】<1つだけ回答>



【そのように考えた具体的な出来事など】

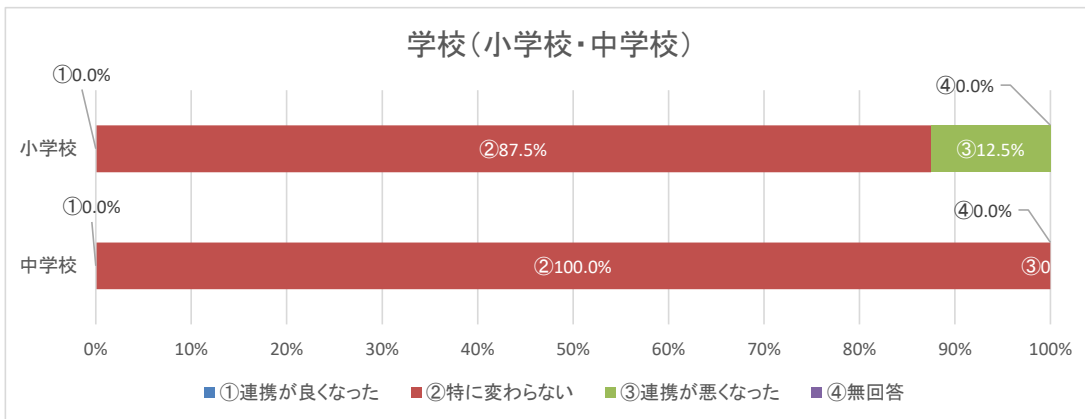
- ・小学校については、学校と地域との連携による学校協議会の活動が、引き続き有効に機能しており、連携関係に変化はない。中学校については、従来から、小学校よりも学校と地域との連携の場は少ないが、連携関係に特に変化は見られない。
- ・特に中学校について、記念行事以外学校から地域への情報が伝わらないように思う。学校行事の予定が不明

(分析)

「特に変わらない」との回答が5割で「連携が悪くなった」との回答が25%となっている。

⑧学校選択制の導入により、あなたの学校における学校と地域、保護者の連携にどのような影響がありましたか。

【学校状況調査:問11】<1つだけ回答>



【そのように考えた具体的な出来事など】 (いずれも小学校の回答)

- ・対応する範囲が広がった分、教員の負担が大きくなっている。
- ・元々、学校の教育活動等について協力的な地域、保護者が多いため、学校選択制の導入による大きな変化は起こっていない。
- ・選択制開始時には、町会の組織と児童の居住場所のずれが様々な場面で課題となったが、現在は解消できてきたように思う。

(分析)

学校では、「特に変わらない」との回答が小学校で9割弱、中学校で10割となっており、全体としては、学校選択制の導入は学校と地域、保護者の連携に大きな影響があるとはとらえられていないが、小学校の一部には教員負担が増えたとの意見がみられる。

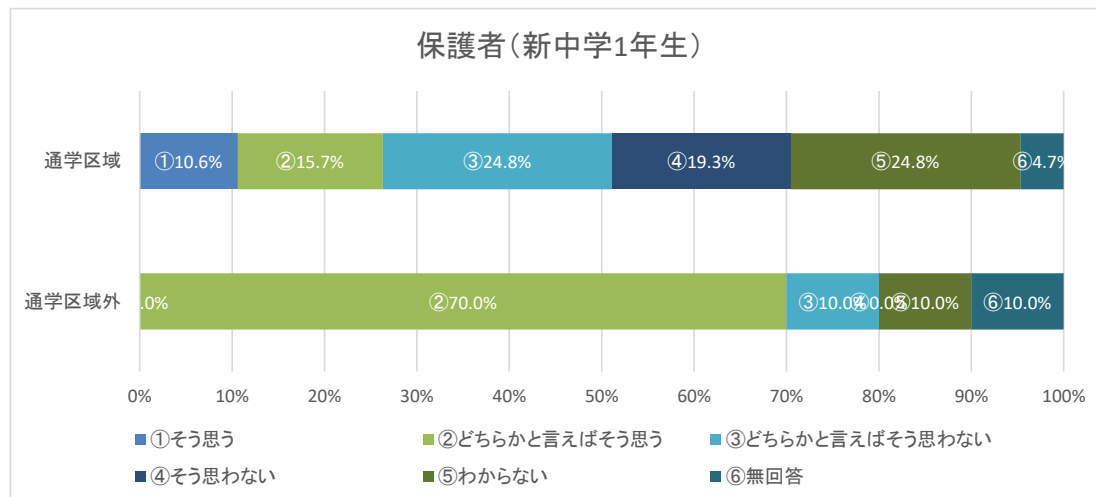
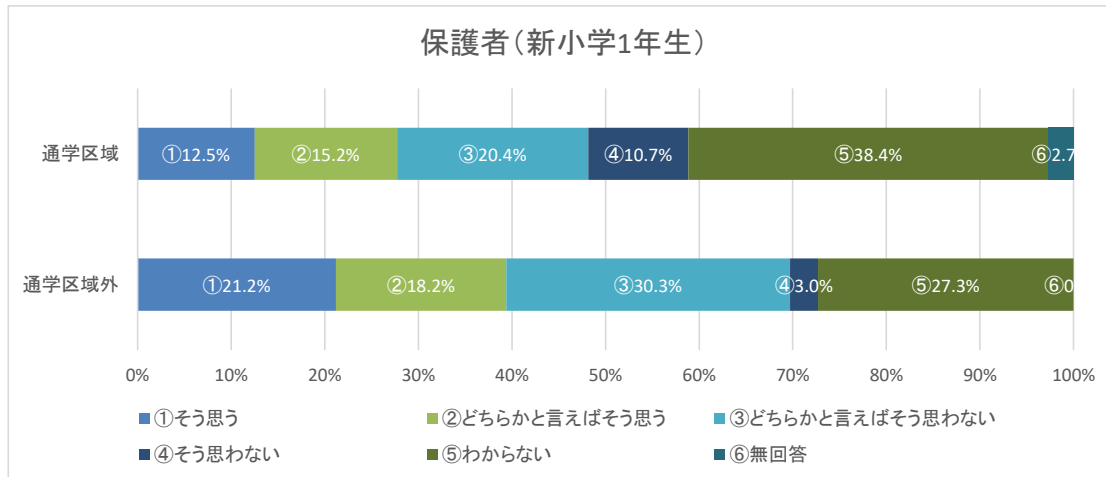
【視点⑦総括】

学校の行事、PTAの活動、地域の行事に対して、保護者の多くは、参加している(参加する意向を持っている)または参加していたことがうかがえる。地域団体関係者では「地域の繋がりが薄くなっている」との回答が3分の2となっているが、学校選択制の導入による影響については「連携が悪くなった」との回答が4分の1あるものの、半数が特に変わらないと考えている。学校では、学校選択制の導入による学校、地域、保護者の連携についても「変わらない」との回答が多くなっている。

## 【視点⑧】 区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないか

①大阪市では、学校案内や学校説明会、学校公開等において、各校の情報を提供しています。あなたや他の方も含め、風評(うわさ)等による学校の選択が行われていると思いますか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問16、保護者アンケート(新中学1年生):問16】<1つだけ回答>



### 【具体的な風評の内容】

- ・いじめの有無
- ・人数が多すぎて、いじめ等気づかれない
- ・地域性、環境による生徒の気質など
- ・学力の差
- ・軍隊みたいに、きびしいが、頭はあまりよくない
- ・先生は子供の成績で態度を変えている
- ・人数が少ないため、PTA等大変

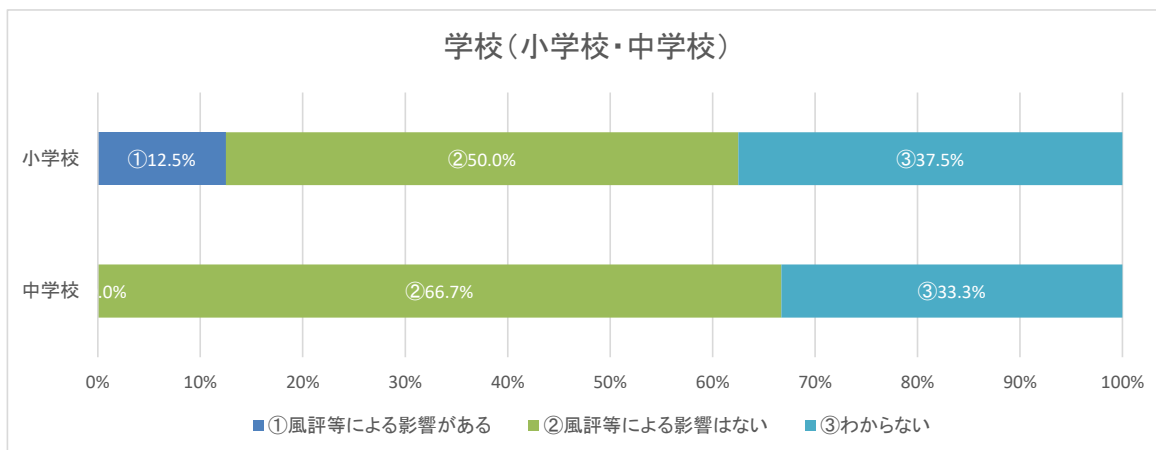
### (分析)

風評等による学校選択が行われているかについては、新小学1年生の保護者では通学区域を選んだ者及び通学区域外を選んだ者のどちらとも「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答が4割弱となっている。一方、新中学1年生の保護者では通学区域を選んだ者は「そう思う」「どちらかと言えばそう思う」との回答が3割弱となっているのに比べ、通学区域外を選んだ者は同回答が7割と高くなっている。



②区や学校が提供する情報ではない風評(うわさ)等による学校選択によって、あなたの学校に影響がありますか。

【学校状況調査:問12】<1つだけ回答>



【そう考えた具体的な出来事等】

- ・児童数の減少が続き、本校が近いうちに廃校になるとの風評がある。

(分析)

「風評等による影響はない」との回答は小学校は半数で、中学校は3分の2となっている。一方、小中学校の3割強で「わからない」と回答している。

③学校選択にあたり、区役所や学校から提供されていた情報のほかに、どのような情報があればよかったですか。

【保護者アンケート(新小学1年生):問17、保護者アンケート(新中学1年生):問17】<自由記述>

(小学校)

- ・PTAの活動内容等
- ・在校生、保護者へのアンケート結果、感想
- ・いじめ有無や対処法など
- ・授業での具体的な取組みの実績(進学校とかではなく)や方向性などを知りたい
- ・どんな先生がいるのか? 家庭とのやりとりはどんなことをしているのか?

(中学校)

- ・補習授業などの取組み
- ・在校生、卒業生、保護者の意見や感想
- ・先生について
- ・通学させている保護者の感想など
- ・ホームページをもっと工夫してアップして欲しい

(分析)

小中学校に共通するものとして、在學生・卒業生・保護者の意見や感想、教員、授業内容などがある。他に小学校では、PTA活動やいじめの有無、中学校では補充授業など学習面についての情報提供も求められている。また、情報収集の手段として、ホームページの見やすさ、充実に対する要望もみられる。

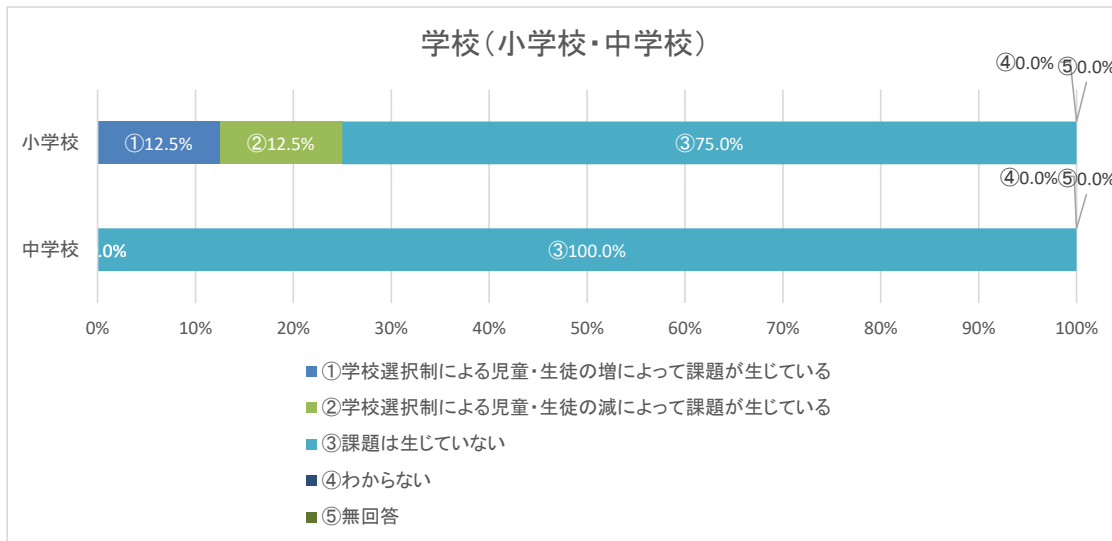
**【視点⑧総括】**

風評等による学校選択については、通学区域外を選んだ新中学1年生の保護者では7割があると考えており、通学区域を選んだ新中学1年生及び新小学1年生の保護者の同回答3割を大きく上回っている。学校選択にあたっては、区役所や学校から提供されていた情報以外に、在校生・保護者等の意見や授業内容等についての情報が求められている。

## 【視点⑨】 学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないか

①学校選択制による児童・生徒の増減で、あなたの学校に教育的課題が生じていますか。

【学校状況調査:問13】<1つだけ回答>



### 【理由】

○小学校（増による課題が生じている）

- ・ここ数年、選択制の児童数によって、毎年、単学級か2学級かが影響されている。単学級となると定員いっぱいの学級になる可能性が高い。

○小学校（減による課題が生じている）

- ・令和2年度は11名、令和3年度は4名の入学、きょうだいが本校に在籍している児童のみであった。来年度からは複式学級設置が必須となり、適切な教育活動を実施することが難しくなる。

○小・中学校（課題は生じていない）

- ・学校選択制による就学者がわずかなので、特に課題は見当たらない。
- ・増減がほぼ一致している。

### （分析）

児童生徒数の増減による教育的課題が生じているかについては、小学校では「児童・生徒の増による課題が生じている」との回答、「児童・生徒の減による課題が生じている」との回答が一部に見られるが、多くの小学校及び全ての中学校では、「課題は生じていない」と回答している。

### 【視点⑨総括】

学校の回答では、小学校において、児童数の減少により複式学級を設置する必要があり教育活動に支障が生じる学校、児童数の増加によっては単学級で児童数が定数上限の学級となる学校があり課題と受けとめられている。その他の小学校、中学校においては児童生徒数の増減が少なく、課題が生じていないと考えていると思われる。

## 【調査・分析のまとめ】

今回、9つの視点に分けて調査分析を行ってきた内容については、次のとおりである。

【視点①】学校選択制の制度に対して、保護者からは、受入枠が小さいため制度があっても希望がかなえられない可能性があること、兄弟枠の設置、選択制により小学校を選んだ場合その通学区域の中学校に進学できるようにしてほしい、との意見がみられるものの、肯定的にとらえられている。また、選択結果の通知時期を早めにしてほしいとの意見もある。地域団体関係者においては、制度に対してメリット、デメリットの両面があると受けとめられている。

【視点②】子どもや保護者が意見を述べ、学校を選ぶことができているかという視点については、通学区内外どちらの学校に入学した者の保護者も、意見を述べ、学校を選択できているととらえている割合が高い。

【視点③】子どもや保護者が学校教育に深い関心を持つようになったかという視点については、保護者では肯定的回答の割合が高い一方で「わからない」との回答も一定数存在する。学校では全体的にみると「どちらでもない」との回答割合が高く、学校選択制と関係があるととらえているとは言えない。

【視点④】特色ある学校づくりが進んだかという視点については、通学区外を選んだ保護者では、肯定的回答が8割と高くなっている。学校においては、中学校の3割が肯定的回答となっているが、全体的には「どちらでもない」との回答が多く、特色ある学校づくりの進展と選択制には関係があるとはとらえていないと思われる。

【視点⑤】開かれた学校づくりが進んだかという視点については、通学区内外を問わず保護者では、選択制により学校の取組み及び情報公開が充実したととらえている一方で2～3割の保護者は「わからない」と回答している。地域団体関係者では、小学校については5割が肯定的回答である一方で、中学校については肯定的回答が4分の1となっており、小学校と中学校で違いがみられる。学校では、選択制と取組みの充実については関係があると考えていないと思われるが、情報発信については一定充実してきたととらえていると思われる。

【視点⑥】児童生徒の通学の安全に課題が生じていないかという視点については、保護者、学校ともに小学校において課題があるととらえている。保護者では、通学区外を選んだ者は、通学距離が長くなる、交通量が多いところを通学するためか、通学路の安全や通学距離、通学時間について事前に確認している割合が高くなっている。

【視点⑦】学校と地域、保護者の連携に課題が生じていないかという視点については、学校の行事、PTAの活動、地域の行事に対して、保護者の多くは、参加しているもしくは参加意向を持っている。地域団体関係者では「地域の繋がりが薄くなっている」と考えている者が3分の2となっているが、選択制導入による影響については半数が特に変わらないと考えている。学校では、選択制導入による学校、地域、保護者の連携についても「変わらない」との回答が多くなっている。

【視点⑧】区や学校が提供する情報ではなく、風評等による学校の選択がなされていないかという視点については、通学区外を選んだ新中学1年生の保護者では7割があると考えており、通学区を選んだ新中学1年生及び新小学1年生の保護者の同回答3割を大きく上回っている。

【視点⑨】学校選択制による児童生徒数の増減で、教育的課題が生じていないかという視点については、小学校において、児童数の減少により複式学級を設置する必要があり教育活動に支障が生じる学校、児童数の増加によっては単学級で児童数が定数上限の学級となる学校があり課題と受けとめられている。それ以外の小・中学校においては児童生徒数の増減が少なく、課題が生じていないと考えていると思われる。

西区の学校選択制においては、受入枠の少なさから希望しても入学できない学校と選択制による校区外への流出により入学者数が減少する学校が存在することや、交通量が多い地域であるため通学範囲が広くなることにより児童生徒の通学の安全確保に課題が生じるという側面があるが、学校選択制による地域との連携への影響については大きいとは言えず、保護者の満足度は高い制度となっている。